

1月の銅マーケットレポート及び2月の見通し (3)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎



■概況

〈自動車〉

12月の四輪車生産台数は79万1315台で、前年同月比+1.3%となり15カ月連続前年同月を上回った。輸出は43万3390台で前年同月比+2.5%となった。

【販売】

1月の国内自動車販売台数(軽は除く)は24万3435台で前年比-5.7%。3カ月連続マイナスとなった。内訳を見ると、乗用車が-6.1%、貨物が-1.8%、バスが-22.4%となっている。

〈住宅〉

平成29年12月の住宅着工戸数は、76,751戸で、前年同月比で2.1%減となった。また、季節調整年率換算値では93.6万戸(前月比2.7%減)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で6か月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに減となった。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【持家】

前年同月比では7か月連続の減少(前年同月比2.5%減、季節調整値の前月比では0.4%増)。

【貸家】

前年同月比では7か月連続の減少(前年同月比3.0%減、季節調整値の前月比では9.8%減)。

【分譲住宅】

前年同月比では先月の増加から再びの減少(前年同月比1.3%減、季節調整値の前月比では4.4%減)。

(分譲マンション)

前年同月比では先月の増加から再びの減少(前年同月比11.0%減)。

(分譲一戸建住宅)

前年同月比では3か月連続の増加(前年同月比6.6%増)。

〈伸銅品生産〉

伸銅品生産は、前年比+3.2%の6万6407t、3カ月連続増加。内需が5万4594tの+3.5%で3カ月連続プラス。輸出は1万1813tで+1.9%、4カ月連続プラス。銅条は2万1930tで+6.3%、20カ月連続プラス。黄銅棒は1万5253t、-4.1%で2か月ぶりプラスとなった。

〈電線〉

前年比+0.7%の5万7500t。うち国内が-0.5%、輸出が+64.1%、通信が-24.2%、電力が-12.1%、電気機械が-0%、自動車が+8%、建設電販が-1%、その他内需が-0.5%となる。

【輸出】

電気銅輸出が-12.3%の3万2216t。銅スクラップ

は-40.7%の1万9523t。

【輸入】

電気銅が+31.9%の3430t。スクラップは-40.8%の7010t。

■見通し

自動車は生産が+1.3%、国内販売台数が前年比-5.7%。生産が15カ月連続プラス、販売が3カ月連続マイナス。販売は3カ月連続マイナス。今後この傾向が続くのか注意が必要。

住宅着工の動向については、前年同月比で-2.1%と6か月連続マイナス。下げ傾向かどうか、今後の動向に注目。

伸銅品は3カ月連続の増加で前年比+3.2%。

需要の多い銅条が、20カ月連続プラス。黄銅棒は2カ月連続プラス、輸出が4ヶ月連続プラス。

電線は前年比+0.7%の5万7500tで輸出が+64.1%。

需要の多い自動車、建設電販がそれぞれ+8%、-1%。全体として停滞傾向。

銅輸出は、内需用途や中国の環境規制から、地金、スクラップ共には減少。

銅輸入は、内需用途から地金が増加。スクラップはメーカーの原料地金シフトで減少。

◆スクラップ需給予想

流通在庫は、伸銅品生産が回復傾向にあること、価格が下落傾向にあることから売り玉も増え、そこそこあるのではないかと。需要面に関しては、住宅で6カ月連続減少、自動車が販売で3カ月連続減少していること、引き続き人手不足問題からメーカーが地金を優先して使用していることから上物スクラップ以外は余り気味なのではないか。

◆価格・為替予想

今月はアメリカの金融政策動向や平昌五輪後の北朝鮮問題に左右される。

アメリカの金融政策に関しては、雇用統計の結果を受けて長期金利の指標となる10年物国債利回りが一時2.85%とほぼ4年ぶりの水準に上昇、株式の相対的な割高感や米利上げペースが速まる可能性が意識されNYダウが665ドル大幅下落した。

今後も企業減税などから好調な経済指標がでてくる可能性が高く、商品、株などからの資金流出が懸念される。

【4頁に続く】

小紙『日刊金属』では、バックナンバー閲覧サイトを開設しております。ご利用ください。

dailiesmetal.com



【3頁から続く】

北朝鮮問題に関しては、オリンピック前の視察キャンセル、共同事業の中止、軍事パレードの開催疑惑などもあるが、一方的に悪化する可能性もなく一進一退か？

これらを踏まえた2月の銅価格は、米金融政策で引き締めを示唆するようなコメントが行なわれず、北朝鮮が追加的な軍事アクションを起こさなかった場合、

先月高値の7200ドルを予測。いずれかの場合は7000ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合の先月安値の6900ドル。

為替は、上記材料から円安値が9月の後半安値108円～112円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては790-850円程度と予測している。
